



クラブサポートミーティングの目的について

第2地域 行動計画推進リーダー 桑澤 一郎（茅野 RC）

25-26 年度は、国際ロータリー会長が直前で交代するなど波乱の幕開けとなりました。しかし、会長代われど方針変わらず、のメッセージも発信され、印刷物やバナーなどの取り替えが主な変更作業となっていることと思われます。

一方で日本のロータリーは、水野理事の力強い指導の下、継続性や独自の地域計画によって、地域リーダーによる積極的なサポート態勢が整っております。

地区組織や地域組織の役割は「クラブのサポート」であることは皆さん十分ご理解いただいておりますが、この十数年、社会情勢の急速の変化やコロナ禍を経て、人々の価値観も急速に変化する中で、「ロータリーも変わらなければならない！」とわかっているにもかかわらず「どう変わればいいのか」が見いだせておらず、いわば「あがいている」状態でもあるといえます。

世界的に一定の影響を持つようになったロータリーは、もっともっと世界を良くしよう、という方針を立て、実現のための戦略の第一優先を「数の力」、つまり「会員増強」と位置づけています。

闇雲な会員増強は、ロータリーやその基本であるクラブの根本を変えてしまう危険を含んでいます。ですから、実は慎重に進めなければなりません。一つの解は「衛星クラブ」です。

「エクスクルーシブ(排他的)なクラブからインクルーシブ(包摂的)なクラブへ変革しなさい」といわれても、「メンバーは選ばれたエグゼクティブの集団である」ことに価値を見出している会員も多くいます。「例会出席や寄付は成功と余裕の証であり、そうした仲間との交流がロータリーに属する価値」である会員が多数いることも事実です。そこに若い人、様々な立場の人をいれて「インクルーシブになれ」といわれてもそんなに簡単には変わりません。

インクルーシブなクラブになる一番の方法が衛星クラブの創立です。ローターアクトクラブでも良いでしょう。若く、汗をかく奉仕活動に意欲のある人たちをメンバーとして迎え、彼らを支援し「自分たちにはできない」地域社会の課題に取り組んでもらうことで、地域社会への影響力を向上させ、地域におけるロータリーの新しいブランドを作ることが出来ます。

今年度から「ガバナー主催のクラブサポートミーティング」や地域リーダー主催の「ガバナーサポートミーティング」が定期開催されます。ガバナーや地域リーダーは単に数字を追うだけではなく(しかし数字も大事です!)、是非こうした戦略的手法の提案で、実質的なクラブサポートに繋げていただきたいと思っています。ご理解ご協力の程よろしくお願いたします。

